

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公開番号】特開2003-306181(P2003-306181A)

【公開日】平成15年10月28日(2003.10.28)

【出願番号】特願2003-62482(P2003-62482)

【国際特許分類第7版】

B 6 2 J 9/00

【F I】

B 6 2 J 9/00 J

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月11日(2004.11.11)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠

【特許請求の範囲】

【請求項1】籠の口枠に、蓋を開閉可能に円形リングで装着するものであって、蓋の本体は前後及び左右の長さを籠の口より短くして口との間に外力を遮断するための隙間を形成し、また籠の変形時の外力を逃がして蓋の損傷を防ぎ、かつ変形した籠の口に対応して開閉するように、蓋の本体の一部に、回動もしくは前後移動もしくは回動と前後移動する可動部を取り付けた、蓋を固定して閉める、変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項2】可動部が定形であって、回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項3】可動部が可変構造であって、回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項4】可動部が、回動の中心を利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項5】可動部が、回動用円形リングを利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1に記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項6】可変構造の可動部が、支点を利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1に記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【請求項7】可変構造で両足の後端が連結されていない可動部が、左右の足の独立した動きによって回動と前後移動するように取り付けられてなる、請求項1に記載の変形しても継続使用可能な蓋付き二輪車籠。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この発明は、籠特に口の部分が外力を受けて多少変形しても、蓋は無傷ないし軽微な損傷にとどまり、かつ、口が変形したままでも蓋を変形に対応させて固定して閉めて継続使用出来る蓋付き二輪車籠に関する。

【0002】

【従来の技術】

以前から、走行中や転倒時の荷物の散逸や引ったくり防止のため、二輪車籠に固定して

閉める蓋を付けることは強く要望されているが、未だこのような二輪車籠は市中に見当たらない。一般に、二輪車籠は接触や衝突或いは転倒によって前籠では前部や側面の前方、後籠では後部や側面の後方が容易に変形し口の形や大きさが変わり易い。従って、蓋を固定して閉める蓋付き二輪車籠は籠（口）が多少変形しても、蓋は無傷ないし軽微な損傷にとどまり、かつ、籠（口）の変形に対応して固定して閉めて継続使用出来、荷物との接触による開閉トラブルもない事が重要である。然るに、古来より公知の蓋付き籠や箱の技術は、いずれも蓋及び籠や箱の本体が変形せず常に一定の形や大きさを保ち、かつ、相互に一定の位置関係で開閉することを前提とするもので、変形し易い二輪車籠には適用出来ないからである。

本発明者は蓋を固定して閉める蓋付き二輪車籠として既に、籠が多少変形しても継続使用出来る蓋付き二輪車籠（特願平11-098826）を出願している。

これは、定形の蓋の本体（荷物を覆う蓋の主要部）もしくは二片を上下に重ねて前後にスライド伸縮するようにした蓋の本体もしくは弾性変形する材料を用いた蓋の本体の一端に取っ手及びフックを固着して取り付け、他端の左右に装着リングとして長方形リングもしくは円形リングを取り付けて蓋とする。この蓋の内、長方形リングを取り付けた蓋は口枠線または口枠線から壁面の外側にかけて設けたガイドレールに沿って前後もしくは上下に移動する装着線に装着、円形リングを取り付けた蓋は回動（回転、前後や左右への傾きや振れ）と前後もしくは上下に移動する装着線に装着するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、この蓋は籠（口）の変形時に損傷を免れ、かつ、変形したままの籠（口）に対応するために前後左右へ移動し多少回動するが、この動きが長方形リングの遊びまたは（及び）装着線の移動または（及び）蓋の本体内で行われるから、長方形リング或いは装着線が口の後方に突き出しており、変形が進むと突き出す長さも長くなる。また、口の変形が小さくても、蓋の全体もしくは大部分が前後移動や回動して口と蓋との位置が大きくずれる等の欠点がある。

この発明はこれらの欠点を解消または軽減させた、蓋を固定して閉める蓋付き二輪車籠を提供する事を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

前記の目的を達成するため、この発明の蓋付き二輪車籠は、籠（口）の変形に対する蓋の形態や対応方法及び籠への装着方法を工夫したものである。即ち、この蓋付き二輪車籠は全て、蓋の本体（荷物を覆う蓋の主要部）の前後及び左右の長さを口の前後及び左右の長さより短くして、口が外力で多少変形しても、口と蓋の本体との間の隙間が外力を遮断して蓋の本体が損傷するのを防ぐようとする。更に、蓋の本体の一端（例えば前籠では前部、後籠では後部）の中央部に、固定して閉めるフックや取っ手を取り付けた、蓋の本体より小さな開閉部を可動部として容易に回動（回転、前後や左右への傾きや振れ等）もしくは前後移動もしくは回動と前後移動するように取り付ける。このように可動部を取り付けることによって、変形時の外力を逃がしもしくは吸収して可動部や蓋の本体の損傷を防ぎ、かつ、フックの位置や傾きを変形した口枠線の位置や傾き等に合わせて開閉できるようとする。また、蓋の装着は本体の他端（例えば前籠では後部、後籠では前部）の枠線もしくは別途設けた装着線を籠の口枠線に固着した円形リングを介して装着、或いは蓋の本体の枠線もしくは別途設けた装着線の後部に固着した円形リングを介して籠の口枠線等に装着して、装着リングが口の後方に突き出さないようにすると共に、装着点を中心にして上下に回動させて開閉して荷物との接触による開閉トラブルも無くしようとするものである。ただし、蓋の本体の一端に前後移動しない開閉部を可動部として取り付けたものは、他端に前後移動する装着部を取り付け、装着部の後部を前記の方法に準じて口枠線等に装着する。

なお、可動部とするのは蓋を開閉するための取っ手やフックを取り付けた開閉部が好ましいが、蓋を口に装着するための装着部でも可能である。ただし、装着部を前後移動しな

い可動部とした時は前後移動する開閉部を取り付ける。

また、可動部は蓋の本体に直接もしくは別途に取り付け構造を設けて取り付けてもよく、本体の上下何れの側に取り付けてもよい。

この発明の蓋付き二輪車籠には可動部の取付方法もしくは可動部の構造等に基づく幾つかの種類があるが、何れも前籠、後籠、側面籠を含み、市販されているような金属線籠、金網籠、プラスチック籠のいずれにも適用可能である。しかし、金網籠やプラスチック籠は構造上もしくは機能上金属線籠と同様ないし略同様に作るために、必要に応じて蓋の本体及び籠に固着した線や部分的に本体から離した線、突起、穴、溝或いは窓、その他を適宜設ける。

次にいくつかの例について具体的に説明する。ただし、金属線の前籠を代表例とし、フックや取っ手を取り付けた開閉部を可動部とするものを、蓋の本体の下側に格子線を利用して取り付けるもので説明する。なお、後記の各論で言及している格子線以外の格子線は可動部の動きを妨げないように適宜取り付ける。

【0005】

その一、可動部が定形であって、回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側に格子線を利用して通常四個固着したリングを介して可動部を回動と前後移動するように取り付けた蓋。または可動部の上側に通常四個固着したリングを介して可動部を回動と前後移動するように本体の格子線に取り付けた蓋を装着したものであり、以下に例をあげて説明する。

1、蓋の本体に長方形リングを固着するものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線を配置する。また、左右の長い縦格子線のすぐ外側の前部の下側及びこれらの位置から適宜後方の下側に格子線を利用して長径が可動部を20度程度回動出来る長さの長方形リング（後方のリングは20度程度回動出来れば長径の短いもの、もしくは大きめの円形リングでも可）を穴を前後向きにして計四個固着する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、フックと取っ手を取り付けた線を固着したもので、幅が左右の長方形リングの長径の中央点間の距離に等しく、前後の長さが本体に固着した後方の長方形リングから本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の線の両足を後方の長方形リングの後方から挿入して前端に、フックと取っ手を取り付けた線を固着する。この蓋の長い縦格子線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた左右の円形リングの上側に固着して装着するものである。

【0006】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線を配置し、この長い縦格子線の下側の前部及びこの位置から適宜後方の位置に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴を左右向きにして計四個固着する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が本体の左右に固着した長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させる事が出来る幅だけ広く、前後の長さが本体に固着した後方の長方形リングの前端から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の線を後方の左右の長方形リングに通して両足を前方へ向け、後端から前方へ、前後の長方形リングの前端間の距離に等しい位

置に前方の左右の長方形リングに通した一本の横線を差し渡して固着し前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着する。この蓋は長い縦格子線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0007】

2、可動部に長方形リングを固着するものである。

先ず、リングの穴を前後向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ、口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線を配置し、これらの長い縦格子線から可動部を20度程度回動させる事が出来る距離離れた内側及び外側に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線との間及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線の間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置する。更に左右に配置した長い縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線との間及び距離を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に、長径の長さが可動部を20度程度回動させることが出来る長さの長方形リング（後方のリングは20度程度回動させることが出来れば長径の短いもの、もしくは大きめの円形リングでも可）を計四個穴で取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が長方形リングを取り付けた左右の長い縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが後方の長方形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、可動部の後端の上側及び後端から前方へ、後方の長方形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置の上側に長方形リングを長径の中央で固着して取り付ける。この蓋は長い縦格子線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた左右の円形リングの上側に固着して装着する。

【0008】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置し、これらの位置から可動部を20度程度回動させる事が出来る距離外側の位置に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線との次の横格子線の隣合った二線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節する。更に、距離を調節した前後の各々の三本の線の内の中の横格子線の、左右に配置した各々の二本組の縦格子線の間の部分に、長径の長さが口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを計四個穴で取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、両足の先端にフックを形成したコの字形の線のフックの基部の上側に取っ手を取り付けた線を差し渡して固着したもので、幅が本体の左右に配置した各々の二本組の縦格子線の中央点間の距離に等しく、前後の長さが後方の長方形リングを取り付けた横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、可動部の上側の後端及び後端から前方へ、長方形リングを取り付けた前後の二本の横格子線間の距離に等しい位置の上側に、長方形リングを長径の後端を合わせて固着して取り付ける。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0009】

その二、可動部が可変構造であって、回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側に格子線を利用して通常四個固着した長方形リングを介して可変

構造の可動部を回動と前後移動するように取り付けた蓋。または可変構造の可動部の上側に通常四個固着した長方形リングを介して可動部を回動と前後移動するように格子線に取り付けた蓋を装着したものであり、以下に例をあげて説明する。

1、蓋の本体に長方形リングを固着するものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。この左右の長い縦格子線の下側の前部及びこれらの位置から適宜後方に、長径が可変構造の可動部を20度程度回動させることが出来る長さの長方形リングを穴を前後向きにして計四個、長径の中央点で固着する。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は例えば、線の両端一センチメートルを半円柱状に削って加工部の中央にピンを通す穴を開けたもの、もしくは前後の二本の横線の両端一センチメートルを外向きのU字形に加工して加工部の中央にピンを通す穴を開け、左右の二本の縦線の両端一センチメートルをU字形と対を成す平板状に加工して加工部の中央にピンを通す穴を開けたもの等を組み合わせて四隅をピンで綴じて平行四辺形の変形をするようにしたものである。従って、可動部は例えば、両端を半円柱状に加工した線を用いて、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じて取り付けたもので、幅が本体に固着した左の長方形リングの穴の左端から右の長方形リングの穴の右端までの距離より少し狭く、前後の長さが本体に固着した後方の長方形リングから本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の両足を長方形リングの後方から差し込んで前方へ引き出し前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じる。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0010】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの前部の下側、及びこれらの位置から適宜後方の下側に格子線を利用して、長径の長さが口と本体の前後の長さの差に開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴を左右向きにして計四個固着する。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は各線の両端及び左右に配置する線の横線を取り付ける位置等を前例と同様に加工したものを用いる。従って、可動部は例えば、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の両足の前端に、フックと取っ手を取り付けた線をピンで綴じ、両足の間に横線（後記）を差し渡してピンで綴じて取り付けるもので、幅が本体の左右に固着した長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させることが出来る距離だけ広く、前後の長さが後方の長方形リングの前端から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物を後方の長方形リングに通して両足を前方へ向け後端から前方へ、後方の長方形リングの前端から前方の長方形リングの前端までの距離に等しい位置に前方の左右の長方形リングに通した一本の横線を差し渡してピンで綴じて取り付けて前端に、フックと取っ手を取り付けた線をピンで綴じる。この蓋は本体の枠線の後部の下側を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0011】

2、可動部に長方形リングを固着するもの。

先ず、リングの穴を前後向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置し、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の距離及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適

宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置する。更に、長い縦格子線の、前枠線と次の横格子線との間及び距離を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に、長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを計四個穴で取り付ける。これに可変構造の可動部を取り付ける。可変構造は両端を半円柱状に加工して加工部の中央にピン穴をあけた線を用いる。従って、可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線にフックと取っ手を取り付けたもので、幅が本体の左右に配置した縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが後方の長方形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端の上側及びこの位置から前方へ、後方の長方形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置の上側に、本体に穴で取り付けた長方形リングを長径の中央より少し内側で固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0012】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着するものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離及び本体の枠線の前部の次の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに調節する。更に距離を調節した前後の各々の三線の内の中の横格子線の、左右に配置した長い縦格子線のすぐ内側の部分に、長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを計四個、穴で取り付ける。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は前例と同様である。従って、可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線にフックと取っ手を取り付けたもので、幅が左右に配置した長い縦格子線間の距離より少し狭く、前後の長さが後方の長方形リングを取り付けた横格子線から本体の枠線前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端の上側及び後端から前方へ、長方形リングを取り付けた前方と後方の横格子線間の距離に等しい位置の上側に長方形リングの後端を合わせて固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0013】

その三、可動部が回動の中心を利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側（可動部の上側でも可）に格子線を利用して取り付けた前後移動しない回動の中心及び本体もしくは可動部に通常二個固着した長方形リングを介して可動部を回動するように取り付けた蓋。または本体の下側（可動部の上側でも可）に格子線を利用して取り付けた前後移動する回動の中心及び本体もしくは可動部に通常二個固着した長方形リングを介して可動部を回動と前後移動するように取り付けた蓋を装着したもので、以下に例をあげて説明する。

1、前後移動しない回動の中心及び本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部を取り付けたものである。

1-1、本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の後部と一つ前の横格子線の間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置する。左右に配置した縦格子線の、本体の枠線の後部と一つ前の横格子線との間の部分に円形リングを穴で取り付け、この縦格子線の後端の下側に

円形リングを穴を前後向きにして固着する。この縦格子線の後端に固着した円形リングに前方から、コの字形で前後の長さが口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さで、幅が左右に配置した縦格子線間の距離に等しい線の両足を通して、前部の上側に縦格子線に穴で取り付けた円形リングを固着して前後移動する口への装着部とする。更に左右に配置した縦格子線のすぐ外側の前部の下側に格子線（本体の枠線の前部も含む）を利用して長径が可動部を20度程度傾けるのに必要な長さの長方形リングを穴を前後向きにして固着する。この長方形リングから適宜後方の横格子線の左右方向の中央の部分を回動の中心点として選定しておく。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線で両足の前端に取っ手とフックを取り付けた線を固着し、後端線の中央の後部に円形リングを穴を上下向きにして固着したもので、幅が本体に固着した左右の長方形リングの長径の中央点間の距離に等しく、前後の長さが回動の中心点から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の線の両足を長方形リングに後方から通して前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し、後部に固着した円形リングに回動の中心とするL字形の線を通して先端を回動の中心点として選定した位置に固着する。この蓋は前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0014】

次に穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ各々0.5~0.8センチメートル程度（回動の中心とするリングが20度程度回動出来る距離）の位置及び数センチメートルの位置に縦格子線を配置する。更に、外側に配置した左右の縦格子線の後部に前例と同様にして前後移動する装着部を取り付け、前部の下側に長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴を左右向きにして固着する。また、長方形リングの後端から適宜後方の横格子線の、内側に配置した二本の縦格子線の間の部分に回動の中心とする大きめの円形リング（線に通して20度程度回動出来る直径）を穴で取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前部に、取っ手とフックを取り付けた線を差し渡して固着し、両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が本体の左右に固着した長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させるのに必要な幅だけ広く、前後の長さが回動の中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、可動部の後部線の中央に回動の中心の大きめの円形リングを固着し後端から前方へ、回動の中心から前方の長方形リングの中央点までの前後差に等しい位置に左右の長方形リングに通した一本の横線を差し渡して固着する。この蓋は前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0015】

1-2、可動部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央の位置及び中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、左右に配置した縦格子線の後部に前例と同様に前後移動する装着部を取り付ける。また、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の距離を可動部を20度程度回動させることが出来る距離離し、左右に配置した縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の部分に、長径の長さが可動部を20度程度回動させる事が出来る長さの長方形リングを穴で取り付ける。更に中央の縦格子線の、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の位置に回動の中心点を選定して置く。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、両足の先端にフックを形成したコの字形の線の後端部の中央の前部に円形リングを穴を上下向きにして固着し、フックの基部に取っ手を取り付けた線を差し渡して固着したもので、幅が本体の左右に配置した縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが略回動の中心点から本体の枠線の前部までの距離に口

と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端部の中央の前部の円形リングに回動の中心のL字形の線を通して先端を回動の中心点に固着し、後端部の中央の円形リングから前方へ、回動の中心点から本体の枠線の前部と次の横格子線との間の中央点までの距離に等しい位置に長方形リングを長径の中央で固着する。この蓋は前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0016】

次に、可動部に穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央及び中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、左右の各々の縦格子線から可動部を20度程度回動させる事が出来る距離離れた外側の位置にも縦格子線を配置する。また、左右へ数センチメートルの位置に配置した縦格子線の後部に前例と同様に前後移動する装着部のコの字形の線を取り付ける。更に、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離を可動部を20度程度回動させることができる距離離し、本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右に配置した各々の二本組の縦格子線の間の部分に長径の長さが可動部を20度程度回動させることができる長さの長方形リングを穴で取り付ける。また、中央に配置した縦格子線の、本体の枠線の前部の次の次の横格子線から適宜後方の下側に、回動の中心とする大きめの円形リング（通した線を20度程度回動出来る直径）を穴を左右向きにして固着する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、U字形の線の両足の前端に取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した二本組の縦格子線の中央点間の距離に等しく、前後の長さが回動の中心点から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、中央の縦格子線に固着した回動の中心の円形リングにU形の線を通して両足を前方へ引き後端から前方へ、回動の中心から長方形リングを取り付けた横格子線までの距離に等しい位置に長方形リングの長径の中央を併せて固着する。この蓋は前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0017】

2、前後移動する回動の中心及び本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部を取り付けたものである。

2-1、本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央に縦格子線を配置し、更に中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、本体の左右に配置した長い縦格子線のすぐ外側の前部の下側に格子線や枠線を利用して長径の長さが可動部を20度程度回動出させる事が出来る長さの長方形リングを穴を前後向きにして固着する。更に、長方形リングから適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置し、中央の縦格子線の、この二本の横格子線の間の部分に円形リングを穴で取り付けて前後移動する回動の中心点とする。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し、後端線の後部に円形リングを穴を上下向きにして固着したもので、幅が本体の左右の長方形リングの長径の中央点間の距離に等しく、前後の長さが略回動の中心点とする円形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の線の両足を長方形リングに後方から通して前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し、後部の円形リングに回動の中心のL字形の線を通して先端を回動の中心点とする円形リングに固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0018】

次に、穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央に縦格子線を配置し、更に中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、左右に配置した長い縦格子線の前部の下側に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴を左右向きにして計二個固着する。更に、長方形リングから適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離し、中央の縦格子線の、この二本の横格子線との間の部分に大きめの円形リング（穴で線に取り付けて20度程度回動出来るもの）を穴で取り付けて前後移動する回動の中心とする。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し、両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が本体の左右の長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させる事が出来る幅だけ広く、前後の長さが略回動の中心の大きめの円形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端線の上側の中央に前後移動する回動の中心の大きめの円形リングを固着し後端から前方へ、略回動の中心の大きめの円形リングの直前の横格子線から長方形リングの前端までの前後の距離に等しい位置に、左右の長方形リングに通した一本の横線を差し渡して固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0019】

2-2、可道部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ1~2センチメートルの位置に縦格子線を配置し、中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の距離及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節する。左右の長い縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の部分に長径の長さが可動部を20度程度回動させ出来る長さの長方形リングを穴で取り付ける。更に、中央から左右へ1~2センチメートルの位置に配置した左右の縦格子線の、距離を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に円形リングを穴で取り付け、左右の円形リングの下側に線を差し渡して固着する。この線の中央を前後移動する回動の中心点とする。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の後端線の中央の後部に円形リングを穴を上下向きにして固着し両足の前部に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した長い縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが略回動の中心点の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには後部の円形リングにL字形の線を通して先端を回動の中心点に固着し、後端から前方へ、回動の中心の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に略等しい位置に、長い縦格子線に取り付けた長方形リングを長径の中央で固着する。この蓋は本体の左右に配置した長い縦格子線の後端に、口枠線の後部の直線部の長さより少し短い線をT字形に固着し、この線の両端を口枠線の後部の左右の上側に固着した円形リングに通して装着する。

【0020】

次に長方形リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央に縦格子線を配置し、中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後

部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。更に左右の長い縦格子線から可動部を20度程度傾けることが出来る距離離れた外側の位置に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離及び本体の枠線の前部の次の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節する。更に本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右の長い縦格子線のすぐ外側の部分に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴で取り付け、中央の縦格子線の、距離を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に前後移動する回動の中心とする大きめの円形リングを穴で取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前部に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が左右に配置した長い縦格子線とその外側の縦格子線との間の中央点間の距離に等しく、前後の長さが略回動の中心の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端線の中央の上側に回動の中心の大きめの円形リングを固着し後端から前方へ、略回動の中心の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置に、長方形リングの前端を合わせて固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0021】

その四、可動部が回動案内用円形リングにはめた回動用円形リングを利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側（可動部の上側でも可）に格子線を利用して取り付けた前後移動しない回動案内用円形リング（円弧及び格子線の一部を円弧状にしたものも含む）にはめた回動用円形リング及び本体もしくは可動部に通常二個固着した長方形リングを介して可動部を回動するように取り付けた蓋。または本体の下側（可動部の上側でも可）に格子線を利用して取り付けた前後移動する回動案内用円形リングにはめた回動用円形リング及び本体もしくは可動部に通常二個固着した長方形リングを介して可動部を回動と前後移動するに取り付けた蓋を装着したものであり、以下に例をあげて説明する。

1、前後移動しない回動案内用円形リングに穴で取り付けた回動用円形リングと本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部を回動するように取り付けた蓋。

1-1、本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ1~2センチメートルの位置及びこれらの位置から数センチメートル外側の位置に縦格子線を配置する。更に、左右の外側の縦格子線の前部の下側に長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴を前後向きにして長径の中央で固着し、後端及び後端から数センチメートル前方の下側に円形リングを穴を前後向きにして固着する。これらの円形リングに前方から、コの字形で前後（足）の長さが後端の円形リングから前方の円形リングまでの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さで、幅が左右の外側の縦格子線間の距離に等しい線の両足を差し込んで前後移動する装着部とする。また、左右方向の中央から左右へ1~2センチメートルの位置に配置した二本の縦格子線の下側に、左右に回動用円形リングを穴で取り付けた回動案内用円形リングを、前端を長方形リングから適宜後方にし中心を本体の左右方向の中央に合わせて固着する。ただし、回動案内用円形リングは直径が二本の縦格子線間の距離より長く、二本の縦格子線の外側の円弧部に填めた回動用円形リングが20度程度回動出来るものとする。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、フックと取っ手を取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に固着した長方形リングの長径の中央点間の距離に等しく、前後の長さが回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の線の両足を長方形リングに後方から通して

両足の前端に、フックと取っ手を取り付けた線を固着し、後端線の上側に回動用円形リングを回動案内用円形リングの左右の直径方向に並べて固着する。この蓋は前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0022】

次に、穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれらより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置する。この縦格子線の前部の下側に長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴を左右向きにして固着し、後部に前例と同様にして前後移動する装着部を取り付ける。更に、左右の縦格子線の間、かつ、縦格子線に取り付けた長方形リングの後端から適宜後方の横格子線と次の横格子線の下側に、回動用円形リングを填めた左右の回動案内用円弧を、中心を本体の左右方向の中央及び二本の横格子線の中央に合わせて固着する。ただし、回動用円形リングが二本の横格子線の間で20度程度回動出来るように回動案内用円弧の直径や縦横の格子線間隔を調節する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、フックと取っ手を取り付けた線を固着し、両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が左右の長方形リング間の距離より可動部を20度程度傾けるのに必要な幅だけ広く、前後の長さが回動案内用円弧の中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには後部線の上側に回動用円形リングを回動案内用円弧の左右方向の直径上に並べて固着し後端から前方へ、回動案内用円弧の中心から長方形リングの長径の中央点までの前後の距離に等しい位置に、左右の長方形リングに通した一本の横線を差し渡して固着する。この蓋は本体の後部に取り付けた前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた左右の円形リングに固着して装着する。

【0023】

1-2、可動部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれらより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、本体の枠線の前部と次の横格子線の間の距離を可動部を20度程度回動させる事が出来る距離離して配置する。また、左右に配置した縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の部分に長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴で取り付け、後部に前例と同様にして前後移動するコの字形の装着部を取り付ける。更に、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方に前例と同様にして回動用円形リングを填めた回動案内用円弧を取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが回動案内用円弧の中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後部線の上側に回動用円形リングを固着し後端から前方へ、回動案内用円弧の中心から本体の枠線の前部と次の横格子線との間の中央点までの距離に等しい位置に縦格子線に取り付けた長方形リングを長径の中央で固着する。この蓋は前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0024】

次に、穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれらより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置及びここから可動部を20度程度回動させることができる距離離れた外側に縦格子線を配置し、内側に配置した左右の縦格子線の後部に前例と同様にして前後移動する装着部のコの字形の線を取り付ける。更に、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離を可動部を20度程度回動させることができる距離離し、本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右へ数センチメートルの位置に配置した縦格子線と外側の縦格子線との間の部分に長径が可動部を20度程度回動させるこ

とができる長さの長方形リングを穴で取り付ける。また、内側に配置した二本の縦格子線の、本体の枠線の前部の次の次の横格子線から適宜後方の位置に、直径が内側の二本の縦格子線間の距離に等しく、左右に小さな回動案内用円形リングを穴で取り付けた回動用円形リングを、回動案内用円形リングの外側の上部を固着して取り付ける。この回動用円形リングの前半部の左右に可動部を固着する二点を選定しておく。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、二本のJ字形の線を尾部を中にして向き合わせて頭部に取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅は前部が中央から左右へ数センチメートルの位置及びその外側に配置した左右の二本組の縦格子線の中央点間の距離で、後部が回動用円形リングに選定した二点間の距離に等しく、前後の長さが回動用円形リングに選定した二点の位置から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、二本のJ字形の線の頭部に取っ手とフックを取り付けた線の左右の尾部を回動用円形リングに選定した二点に固着し、本体の枠線の前部の次の横格子線と交差する位置に、この横格子線に取り付けた長方形リングの長径の中央点をわせて固着する。この蓋は後部に取り付けた前後移動する装着部のコの字形の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0025】

2、前後移動する回動案内用円形リングにはめた回動用円形リングと本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部を回動と前後移動する様に取り付けたものである。

2-1、蓋の本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、これらの長い縦格子線の前部の下側に、長径が可動部を20度程度回動させることが出来る長さの長方形リングを穴を前後向きにして長径の中央で固着する。更に、長方形リングから適宜後方の横格子線と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節する。本体の左右に配置した長い縦格子線の、前記の三本の横格子線の隣合った各々の二線の間に円形リングを一個づつ穴で取り付け、前方の左右の円形リングの下側及び後方の左右の円形リングの下側に各々線を差し渡して固着する。この前後の二横線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節して下側に、左右に回動用円形リングを填めた直径数センチメートルの回動案内用円形リングを、中心を本体の左右方向の中央及び差し渡した二本の横線の間の中央にわせて固着する。ただし、回動用円形リングが二本の横線の間で20度程度回動出来るように回動案内用円形リングの直径や格子線間隔等を調節する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した長い縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが距離を調節した三本の横格子線の内の前方の二本の横格子線の間の中央から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるにはコの字形の線の両足を本体に固着した長方形リングに後方から通して前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し、後部の上側の左右に回動用円形リングを前例と同様に固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して、口枠線の後部に装着する。

【0026】

次に、穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置し、これらの長い縦格子線の前部の下側に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加え

た長さの長方形リングを穴を左右向きにして固着する。更に、これらの長方形リングから適宜後方に前例と同様にして回動用円形リングを左右に穴で取り付けた回動案内用円形リングを前後移動するように取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着し両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が左右の長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させることが出来る距離だけ広く、前後の長さが回動案内用円形リングを前方へ一杯に押したときの回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには後端線の上側の左右に回動用円形リングを前例と同様にして固着し後端から前方へ、回動案内用円形リングを前方へ一杯に押したときの回動案内用円形リングの中心から長方形リングの前端までの距離に略等しい位置に、左右の長方形リングに通した一本の線を差し渡して固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して、口枠線の後部に装着する。

【0027】

2-2、可動部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差に開閉時の引き代をえた長さに等しい距離に調節し、左右に配置した縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線の間の部分に長径が可動部を20度程度回動させることが出来る長さの長方形リングを穴で取り付ける。更に、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方に前例と同様にして回動用円形リングを左右に穴で取り付けた回動案内用円形リングを前後移動するように取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが略回動案内用円形リングを前方へ押しつけた時の回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代をえた長さとする。この可動部を取り付けるには後端線の上側に回動用円形リングを前例と同様に固着し後端から前方へ、回動案内用円形リングを前方へ押しつけた時の回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に略等しい位置に縦格子線に穴で取り付けた長方形リングを長径の中央点で固着する。この蓋は本体の枠線の後部を、口枠線の後部の左右に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0028】

次に長方形リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置し、この位置から可動部を20度程度傾けることが出来る距離離れた外側の位置にも縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣あった二線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代をえた長さに等しい距離に調節し、本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右に配置した二本組の縦格子線の間の部分に、長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代をえた長さの長方形リングを穴で取り付ける。更に、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方に前例と同様にして回動用円形リングを左右に穴で取り付けた回動案内用円形リングを前後移動するように取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、コの字形の線の両足の前端に、取っ手とフックを取り付けた線を固着したもので、幅が本体の左右に配置した二本組の縦格子線の中央点間の距離に等しく、前後の長さが回動案内用円形リングを前方へ押しつけた時の回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代をえた長さとする。こ

の可動部を取り付けるには後端線の上側に回動用円形リングを固着し後端から前方へ、回動案内用円形リングを前方へ押しつけた時の回動案内用円形リングの中心から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置に長方形リングの前端を合わせて固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0029】

その五、可変構造の可動部が支点を利用して回動もしくは回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側（可動部の上側でも可）に格子線を利用して取り付けた前後移動しない回動の支点及び本体もしくは可動部に通常二個または四個固着した長方形リングを介して可変構造の可動部を回動するように取り付けた蓋。または本体の下側（可動部の上側でも可）に前後移動するように取り付けた回動の支点及び本体もしくは可動部に通常二個または四個固着した長方形リングを介して可動部を回動と前後移動するように取り付けた蓋を装着したものであり、以下に例をあげて説明する。

1. 前後移動しない回動の支点と本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部をとりつけたものである。

1-1、蓋の本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央及び中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、左右に配置した縦格子線のすぐ外側の前部の下側及びその位置から適宜後方の下側に格子線を利用して長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴を前後向きにして計四個固着する。また、本体の中央に配置した縦格子線の、後方の長方形リングから適宜後方の位置に回動の支点を固着する点を設定して置く。更に、本体の枠線の後部と一つ前の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた距離に調節して、左右に配置した縦格子線の、本体の枠線の後部と一つ前の横格子線との間の部分に円形リングを穴で取り付け、後端の下側に円形リングを穴を前後向きにして固着する。これらの左右の縦格子線の後端の円形リングに長さが口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの線を通して前端の上側に縦格子線にはめた円形リングを固着して前後移動する口への装着部とする。これに可変構造の可動部を取り付ける。可変構造は例えば、両端一センチメートルを半円柱状に削って加工部の中央部にピンを通す穴を開けた線を組み合わせて四隅をピンで綴じ平行四辺形型の変形を可能にしたものである。従って可動部は例えば、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の後端線の中央の後部に円形リングを穴を上下向きに固着し前端に、取っ手とフックを取り付けた線の両端をピンで綴じて取り付けたもので、幅が本体に固着した左の長方形リングの穴の左端から右の長方形リングの穴の右端までの距離より少し狭く、前後の長さが支点の位置から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、コの字形の構造物の両足を長方形リングに後方から通して前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じ、後端線に固着した円形リングに回動の支点のL字形の線を通して先端を設定した点に固着する。この蓋は前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0030】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置する。この縦格子線の前部の下側に長径の長さが可動部を20度程度回動させることが出来る長さの長方形リングを穴を左右向きにして固着し、後部に前例と同様に前後移動する装着部を取り付ける。また、この長方形リングの後端から適宜後方の横格子線の左右方向の中央を回動の支点を固着する点として選定して置く。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は必要な箇所を前例と同様に加工した線を用いて構成する。従って可動部は例えば、二隅をピンで綴じ

てコの字形にした構造物の後端線の中央の後部に円形リングを穴を上下向きに固着し前端に、取っ手とフックを取り付けた線の両端をピンで綴じ、両足の間に横線（後記）を差し渡して取り付けるもので、幅が左右の長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させる事が出来る幅だけ広く、前後の長さが支点の位置から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さを加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後部の円形リングに回動の支点のL字形の線を通して先端を選定して置いた点に固着し後端から前方へ、本体の支点の位置から前方の長方形リングの長径の中央点までの前後の距離に等しい位置に、左右の長方形リングに通した横線を差し渡してピンで綴じて取り付ける。この蓋は前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0031】

1-2、可動部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中心から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、この縦格子線の後部に前例と同様にして前後移動する口への装着部を取り付ける。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣あった二線の間の距離を可動部を20度程度回動出来る距離に調節し、左右に配置した縦格子線の、距離を調節した三横線の隣合った各々の二線の間の部分に長径の長さが可動部を20度程度回動出来る長さの長方形リングを計四個穴で取り付ける。更に、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線の左右方向の中央の下側に回動の支点とする大きめ円形リング（線を通して20度程度回動出来るもの、長径の短い長方形リングでも可）を穴を左右向きにして外側の上端で固着する。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は前例と同様に加工した線を用いる。従って可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線に取っ手とフックを取り付けたもので、幅が左右に配置した縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが支点の位置から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さをえた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端線を回動の支点とする大きめ円形リングに通して両端に前後方向の線をピンで綴じ前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じて取り付け、後端から前方へ、本体の支点の位置から本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の各々の中央点までの距離に等しい位置に、左右に配置した縦格子線に取り付けた前後の長方形リングを長径の中央点より少し内側で固着する。この蓋は前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0032】

次に、長方形リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央の位置及び中央から左右へ数センチメートルの位置に縦格子線を配置し、左右に配置した縦格子線の後部に前例と同様に前後移動する口への装着部を取り付ける。また、本体の前枠の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣あった二線間の距離を可動部を20度程度回動させることが出来る距離に調節して、本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右に配置した縦格子線のすぐ外側に長径の長さが可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴で取り付ける。更に、中央の縦格子線の、本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の下側に回動の支点とする大きめの円形リング（通した線を20度程度回動させることが出来るもの）を穴を左右向きにして外側の上端で固着する。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は前例と同様である。従って可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線に取っ手とフックを取り付けたもので、幅が左右に配置した縦格子線間の距離より可動部を20度程度回動できる幅だけ広く、前後の長さが支点の位置から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さをえた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端線を回動の支点とする大きめ円形リングに通して両端に前後方向の線をピンで綴じ前端に、取っ手とフックを取

り付けた線をピンで綴じて取り付け、後端から前方へ、支点の大きめの円形リングから本体の枠線の前部の次の横格子線までの距離に等しい位置に長方形リングを長径の中央点を合わせて固着する。この蓋は前後移動する装着部の線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0033】

2、前後移動する支点と本体もしくは可動部に固着した長方形リングを介して可動部を取り付けたものである。

2-1、本体に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央に縦格子線を配置し、中央から左右へ数センチメートルの前部の下側及びここから適宜後方の下側に格子線を利用して長径が可動部を20度程度回動させるのに必要な長さの長方形リングを穴を前後向きにして計四個固着する。更に後方の長方形リングから適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の長さに開閉時の引き代を加えた距離に調節し、中央に配置した縦格子線の、この二本の横格子線の間の部分に前後移動する回動の支点の大きめの円形リング（線に取り付けた状態で20度程度回動するもの）を穴で取り付ける。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は前例と同様である。従って可動部は例えば、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じたもので、幅が本体の左右に固着した長方形リングの長径の中央点間の距離より少し広く、前後の長さが略回動の支点のリングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の両足を長方形リングに後方から通して前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じて取り付け、後端線の中央の上側に、中央の縦格子線に穴で取り付けた回動の支点の大きめの円形リングの下端を固着する。この蓋は本体の枠線の後部を口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0034】

次に、穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ1~2センチメートルの位置に縦格子線を配置し、これらの位置から各々外側へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、左右に配置した長い縦格子線の前部の下側に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴を左右向きにして固着する。更に、前記の長方形リングの後端から適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離に調節し、中央から左右へ1~2センチメートルの位置に配置した左右の縦格子線の、距離を調節した二本の横格子線の間の部分に円形リングを穴で取り付ける。左右の円形リングの下側に線を差し渡して固着し前後移動する回動の支点を固着する線とする。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は必要な箇所を前例と同様に加工した線を用いて構成する。従って可動部は例えば、二隅をピンで綴じてコの字形にした構造物の後端線の中央の後部に円形リングを穴を上下向きにして固着し前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じ両足の間に横線（後記）を差し渡してピンで綴じて取り付けるもので、幅が本体の左右に固着した長方形リング間の距離より可動部を20度程度回動させるのに必要な幅だけ広く、前後の長さが略回動の支点を固着する線の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後部の円形リングに回動の支点とするL字形の線を通して先端を回動の支点を固着する線の中央に固着し後端から前方へ、支点の直前の横格子線から長方形リングの前端までの距離に略等しい位置に、左右の長方形リングに通した線を差し渡してピンで綴じ前端に、取っ手とフックを取り付けた線をピンで綴じる。この蓋は左右に配置し

た長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0035】

2-2、可動部に固着した長方形リングを介して取り付けたものである。

先ず、長方形リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央に縦格子線を配置し、中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の距離及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに調節する。更に、左右に配置した長い縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線との間の部分に長径が可動部を20度程度回動させる事が出来る長さの長方形リングを穴で取り付け、中央の縦格子線の、距離を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に回動の支点とする大きめの円形リング（通した線を20度程度回動出来る直径）を穴で取り付ける。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は必要な箇所を前例と同様に加工した線を用いて構成する。従って可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線に取っ手とフックを取り付けたもので、幅が本体の左右に配置した長い縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが略回動の支点の大きめの円形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部を取り付けるには、後端線の中央の上側に回動の支点の大きめの円形リングを固着し後端から前方へ、支点の直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置に長方形リングを長径の中央点より少し内側で固着して取り付ける。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して、口枠線の後部に装着する。

【0036】

次に長方形リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央に縦格子線を配置し、中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣あつた二線間の距離及び本体の枠線の前部の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線との間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた距離に調節する。更に本体の枠線の前部の次の横格子線の、左右に配置した長い縦格子線のすぐ外側の部分に長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴で取り付け、中央の縦格子線の、間隔を調節した後方の二本の横格子線の間の部分に回動の支点の円形リング（通した線を20度程度回動出来る直径）を穴で取り付ける。これに可変構造の可動部を取り付けるが、可変構造は前例と同様に両端を加工した線を用いて構成する。従って可動部は例えば、四隅をピンで綴じた平行四辺形の前端線に取っ手とフックを取り付けたもので、幅が左右に配置した長い縦格子線間の距離より可動部を20度程度回動させるのに必要な幅だけ広く、前後の長さが略回動の支点の円形リングの直前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部は後端線の中央の上側に、回動の支点とする円形リングを固着し後端から前方へ、回動の支点の直前の横格子線から本体の枠線の前部の次の横格子線までの距離に等しい位置に長方形リングの後端を合わせて固着して取り付ける。この蓋は長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0037】

その六、可変構造で左右の両足の後端が連結されていない可動部が左右の足の独立した動きによって回動と前後移動するように取り付けられた蓋を装着した蓋付き二輪車籠。

これは蓋の本体の下側に格子線を利用して通常四個固着したリングを介して可変構造で両足の後端が連結されていない可動部を回動と前後移動するように取り付けた蓋。または

可変構造で両足の後端が連結されていない可動部の上側に通常四個固着したリングを介して可動部を回動と前後移動するように本体の格子線に取り付けた蓋を装着したものであり、以下に例あげて説明する。

1、蓋の本体にリングを固着したものである。

先ず、リングの穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へと本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線を配置する。この左右の長い縦格子線の前部の下側及びここから適宜後方の下側に長径の長さが可動部を20度程度回動させ出来る長さの長方形リング（後方のリングは可動部を20度程度回動出来れば長径の短いものもしくは大きめの円形リングでも可）を穴を前後向きにして長径の中央で固着する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、両端一センチメートルを外向きのU字形に加工して加工部の中央に穴を開けた線に取っ手とフックを取り付けて前端線とし両端に、前部一センチメートルをU字形と対をなす平板状に加工して加工部の中央に穴を開けた線を組み合わせてピンで綴じてコの字形にしたもので、幅が本体の左右に固着した長方形リングの長径の中央点間の距離に略等しく、前後の長さが後方のリングから本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部はコの字形にして両足を前方から前後の長方形リングに通し、可動部の脱落防止のため、各々の足の後部内側の側面にコの字形で両足間の距離が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの線を後方のリングを取り込んで固着して取り付ける。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後端を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングに固着して装着する。

【0038】

次に、リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの前部の下側及びここから適宜後方の下側に格子線を利用して長径の長さが口と本体の前後の長さの差に開閉時の引き代を加えた長さに等しい長方形リングを穴を左右向きにして固着する。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば、前例と同様に加工した線を用いて、取っ手とフックを取り付けた線の両端に足とする線をピンで綴じてコの字形にした、幅が本体の左右に固着した長方形リング間の距離より数ミリメートル程度狭く、前後の長さが後方の長方形リングの前端から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差及び開閉時の引き代を加えた長さの構造物を作る。このコの字形の構造物を本体に取り付けた前後の長方形リングの内側に配置して、前後の長方形リングの外側から、コの字形で両足間の距離が前方の長方形リングの後端から後方の長方形リングの後端までの距離に等しく、足の長さが長方形リングの線の直径に数ミリメートル（可動部を20度程度回動させ出来る長さ）程度加えた長さの線の両足を前後の長方形リングに通し、後方の足を構造物の後端に合わせて両足を構造物に固着して可動部として取り付ける。この蓋は本体の枠線の後部の下側を、口枠線の後部に穴で取り付けた円形リングの上側に固着して装着する。

【0039】

2、可動部にリングを固着したものである。

先ず、穴を前後向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、本体の左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に、本体の枠線の後部から後方へ、口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。更に、本体の枠線の前部と次の横格子線の間の距離及び前記の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線の間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置する。また、左右に配置した長い縦格子線の、本体の枠線の前部と次の横格子線の間に可動部を20度程度回動させ出来る長方形リングを穴で取り付け、後方の距離を調節した二本の横格子線の間に可動部を20度程度回動

させることが出来る大きめの円形リングを穴で取り付ける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば前例と同様に加工した線を用いて、取っ手とフックを取り付けた線の両端に足とする線をピンで綴じて取り付けてコの字形にしたもので、幅が本体の左右に配置した長い縦格子線間の距離に等しく、前後の長さが本体の後方の距離を調節した二本の横格子線の内の前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部は両足の後端の上側に左右の長い縦格子線に取り付けた大きめの円形リングを固着し後端から前方へ、間隔を調節した後方の二本の横格子線の内の前の横格子線から本体の枠線の前部までの距離に等しい位置に、縦格子線に取り付けた長方形リングを長径の中央点より少し内側で固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0040】

次に、リングの穴を左右向きに固着したものである。これは例えば、金属線で前後及び左右の長さが口のそれより短い格子状の蓋の本体を作るが、その際、左右方向の中央から左右へ数センチメートルの位置に本体の枠線の後部から後方へ口と本体の前後の長さの差の半分の長さ突き出し後部に円形リングを形成した長い縦格子線を配置する。更に、これらの位置から可動部の足線の直径に6~8ミリメートル(可動部を20度程度回動出来、横振れしない距離)程加えた距離外側の位置に縦格子線を配置する。また、本体の枠線の前部と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離及び前枠線の次の次の横格子線から適宜後方の横格子線と次の横格子線とその次の横格子線の隣合った二線間の距離を口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた距離離して配置する。更に、本体の枠線の前部の次の横格子線及び後方の距離を調節した三本の横格子線の内の中央の横格子線の、左右に配置した二本組の縦格子線の間の部分に、長径が口と本体の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さの長方形リングを穴でとりつける。これに可動部を取り付ける。可動部は例えば前例と同様に加工した線を用いて、取っ手とフックを取り付けた線の両端に足とする線をピンで綴じて取り付けてコの字形にしたもので、幅が本体の左右に配置した外側の縦格子線間の距離より少し狭く、前後の長さが後方の長方形リングを取り付けた横格子線から本体の枠線の前部までの距離に口と本体の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さとする。この可動部は両足の後端の上側に後方の長方形リングを固着し後端から前方へ、後方の長方形リングを取り付けた横格子線から本体の枠線の前部の次の横格子線までの距離に等しい位置に前方の長方形リングの後端を合わせて固着して取り付ける。この蓋は左右に配置した長い縦格子線の後部の円形リングを介して口枠線の後部に装着する。

【0041】

なお、前記の何れの例においても、可動部に固着するリングを本体の格子線に取り付ける場合は必要に応じて本体の当該箇所の格子線の間隔を広げる。または格子線の支障となる部分を省略もしくはコの字形や円弧状に曲げて他方の格子線から離す。

また、可動部を取り付けるリングは可動部と本体に分散させて固着する事が可能であり、穴を前後向きにした左右の二個のリングもしくは穴を左右向きにした前後の二個のリングは両リングを包含する一個の長方形リングで置き換えることが出来る。

また、縦格子線もしくは横格子線に沿って長方形リングを固着するものでは長方形リングの代わりにコの字形の線の両足を格子線に固着することも可能である。

更に、可動部(前後移動する装着部も含む)と本体の間に全体の長さが短くなる向きに付勢するバネを取り付けるのは好ましく、本体の格子線にバネを填めて取り付ける場合は必要に応じて当該箇所の横格子線の間隔を広げる。または横格子線の支障となる部分を省略もしくはコの字形や円弧状に曲げて縦格子線から離す。可動部に填めて取り付けるときは可動部を長くする。

【0042】

【作用】

この発明はこのようなものであるから、筆(口)が外力を受けて多少変形しても、蓋の

本体と口枠線との間の空間が外力を遮断する。また、可動部はその取付構造もしくは可動部自体の構造が単独または複合的に機能して、蓋の変形に従って容易に回動や前後移動(装着部の前後移動も含む)して外力を逃がしもしくは吸収するように作用し、更に、フックの位置や傾きを容易に変形したままの口の位置や傾きに対応させて蓋を固定して閉めることを可能にする。

【0043】

【実施例】

実施例について図面を参照して説明する。図面は何れも蓋を筆(口枠線のみで表示)に装着し、取っ手を前方へ引いて閉めたもの、もしくは閉めようとしているところの斜視図である。

図1はその二の一例である。蓋の本体1は後部を省略した縦格子線2を左右に配置し、本体の枠線3の後部の中央を省略して装着線4とする。これに回動と前後移動する可動部を取り付ける。可動部は前端にフック5を形成した、前後の長さが横格子線6から本体の枠線3の前部までの距離に口枠線7と蓋の本体1の前後の長さの差及び開閉時の引き代を加えた長さに等しく、幅が左右各々の縦格子線2と縦格子線8の中央点の間の距離に等しいコの字形の線9を用いる。このコの字形の線9の左右の足に長径の長さが可動部を20度程度回動させることが出来る長方形リング10、11を取り付け、取っ手12を先端に固着した円形リング13で取り付けた線14をフック5の基部に固着する。更に、長方形リング10を横格子線6に固着し、長方形リング11を本体の枠線3の前部に固着して取り付ける。この蓋は装着腕4を口枠線7に固着した円形リング15を通して装着し、閉めるために取っ手12を引いたところである。

【0044】

図2はその二の一例である。蓋の本体21は、口枠線22と蓋の本体21との前後の長さの差の半分の長さ後方に突き出し、後部に円形リング23を形成した長い縦格子線24を左右に配置する。左右に配置した長い縦格子線24の下側に可動部を20度程度回動させることが出来る長方形リング25及び26を固着する。これに回動と前後移動する可変構造の可動部を取り付ける。可動部は両端1センチメートルを半円柱状に加工して中央に穴をあけた、長さが略長方形リング25から26までの距離に口枠線22と蓋の本体21の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さの線27を長方形リング25、26に通す。この線27の前部に、両端を線27と同様に加工した長さが左右の長方形リング25の中央点の間の距離より少し長く、取っ手28を先端に形成した円形リング29で取り付け、フック30を固着した線31を組み合わせてピン32で綴じる。更に、線27の後端に、線31と同じ長さで両端を同様に加工した線33をピン34で綴じて可変構造とする。この蓋は長い縦格子線24の後端に形成した円形リング23で口枠線22に装着し、閉めるために取っ手28を引いたところである。

【0045】

図3はその三の一例である。蓋の本体41は横格子線42と43の間の距離を口枠線44と蓋の本体41の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離以上離して配置する。また、回動の中心とする長方形リング45を取り付けた縦格子線46を中央に配置し、中央から左右へ数センチメートルの位置に、口枠線44と蓋の本体41の前後の長さの差の半分の長さ後方に突き出した長い縦格子線47を配置する。長い縦格子線47の前部に、両足間の距離が口枠線44と蓋の本体41の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しいコの字形の線48を固着して長方形リングを形成する。これに回動の中心を利用して回動と前後移動する可動部を取り付ける。可動部は後部を後方へ突きだした線49の後部に回動の中心とする長方形リング45を固着し、後端から前方へ、横格子線43からコの字形の線48の前端までの距離に等しい位置に、コの字形の線48で形成した長方形リングに通した線50を差し渡して固着する。更に、後部を後方へ突きだした線49の前端に、取っ手51を先端に固着した円形リング52で取り付け、フック53を固着した線54を固着したものである。この蓋の長い縦格子線47の後端を口枠線44に取り付けた円形リング55に固着して取り付け、閉めるた

めに取っ手5_1を引いたところである。

【0046】

図4はその四の一例である。蓋の本体6_1は、横格子線6_2と6_3の間の距離を回動案内用半円弧6_4の半径に口枠線6_5と蓋の本体6_1との前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置し、この二本の横格子線6_2と6_3の間に、可動部の動きを妨げないように円弧6_6を形成した横格子線6_7と円弧6_8を形成した横格子線6_9を配置する。また、円形リング7_0及び7_1を取り付け、口枠線6_5と蓋の本体6_1の前後の長さの差の半分の長さ後方へ突きだした長い縦格子線7_2を左右に配置する。これに回動と前後移動する可動部を取り付ける。可動部は、左右の長い縦格子線7_2に取り付けた左右の円形リング7_0の下に線7_3、左右の円形リング7_1の下に線7_4を固着する。この二線7_3と7_4の上側に、可動部を20度程度回動させることが出来る回動用円形リング7_5を二個取り付けた回動案内用半円弧6_4を固着する。更に、前部にフック7_6を形成した、前後の長さが回動案内用半円弧6_4の半径の略半分の長さに横格子線6_3から本体の枠線7_7の前部までの距離及び口枠線6_5と蓋の本体6_1の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さで、幅が左右に配置した長い縦格子線7_2より少し広いコの字形の線7_8のフック7_6の基部に、取っ手7_9を先端の円形リング8_0で取り付けた線8_1を固着する。コの字形の線7_8の後部の上側に左右の回動用円形リング7_5を固着し前部を、可動部を20度程度回動させる事が出来るコの字形の線8_2で受けて両足を本体の枠線7_7の前部に固着して取り付ける。この蓋は長い縦格子線7_2の後端を口枠線6_5に取り付けた円形リング8_3に固着して装着し、閉めるために取っ手7_9を引いたところである。

【0047】

図5はその五の一例である。蓋の本体9_1は、横格子線9_2と9_3の間の距離及横格子線9_3と9_4の間の距離及び横格子線9_5と本体の枠線9_6の前部との間の距離を口枠線9_7と蓋の本体9_1の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた長さに等しい距離離して配置する。また、横格子線9_2と9_3の間に可動部の動きを妨げないように中央部を省略した横格子線9_8を配置する。更に、可動部を20度程度回動させることが出来る長方形リング9_9、1_0_0を穴で取り付けた、後部を口枠線9_7と蓋の本体9_1の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線1_0_1を左右に配置し、回動の支点とする長方形リング1_0_2を取り付けた縦格子線1_0_3を中央に配置する。これに回動と前後移動する可変構造の可動部を取り付ける。可動部は、両端一センチメートルを半円柱状に加工して中央部に小さな穴をあけた、両穴の間の距離が横格子線9_3から本体の枠線9_6の前部までの距離に口枠線9_7と蓋の本体9_1の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さに等しい線1_0_4の後部に、両端を線1_0_4と同様に加工した、両穴の間の距離が左右の長い縦格子線1_0_1の間の距離に等しい長さの線1_0_5を加工面を合わせてピン1_0_6で綴じる。更に、線1_0_4の前部に、両端の加工や長さが線1_0_5と同じで、取っ手1_0_7を先端に固着した円形リング1_0_8で取り付けフック1_0_9を固着した線1_1_0をピン1_1_1で綴じて可変構造とする。この可動部の線1_0_5の中央の上側に回動の支点とする長方形リング1_0_2を固着し、両端を加工した線1_0_5から前方へ、横格子線9_3から9_4までの距離に等しい位置に長方形リング9_9を、横格子線9_3から本体の枠線9_6の前部までの距離に等しい位置に長方形リング1_0_0を固着して取り付ける。この蓋は左右の長い縦格子線1_0_1の後端を口枠線9_7の後部に取り付けた円形リング1_1_2に固着して装着し、閉めるために取っ手1_0_7を引いたところである。

【0048】

図6はその六の一例である。蓋の本体1_2_1は横格子線1_2_2と1_2_3の間の距離及び横格子線1_2_4と本体の枠線1_2_5の前部との間の距離を、口枠線1_2_6と蓋の本体1_2_1の前後の長さの差の半分の長さに開閉時の引き代を加えた距離離して配置する。また、可動部を20度程度回動させることが出来る大きめの円形リング1_2_7及び長方形リング1_2_8を取り付けた縦格子線1_2_9を左右に配置し、更に、後部を口枠線1_2_6と蓋の本体1_2_1の前後の長さの差の半分の長さ突き出した長い縦格子線1_3_0を左右に配置する

。これに左右の足の独立した動きによって回動と前後移動する可変構造の可動部を取り付ける。可動部は両端 1 センチメートルを半円柱状に加工し加工部の中央に小さな穴を開けた、両穴の間の距離が左右に配置した縦格子線 1 2 9 の間の距離に等しい長さの線 1 3 1 に、取っ手 1 3 2 を先端に形成した円形リング 1 3 3 で取り付けフック 1 3 4 を固着する。この線 1 3 1 の両端に、前部を線 1 3 1 と同様に加工した長さが横格子線 1 2 3 から本体の枠線 1 2 5 の前部までの距離に口枠線 1 2 6 と蓋の本体 1 2 1 の前後の長さの差の半分の長さ及び開閉時の引き代を加えた長さの線 1 3 5 の前部を合わせてピン 1 3 6 で綴じて可変構造とする。更に、線 1 3 5 の後端に大きめの円形リング 1 2 7 を固着し、後端から前方へ、横格子線 1 2 3 から本体の枠線 1 2 5 の前部までの距離に等しい位置に長方形リング 1 2 8 を固着する。この蓋は左右に配置した長い縦格子線 1 3 0 の後端に線 1 3 7 を固着し、線 1 3 7 の両端を口枠線 1 2 6 に固着した円形リング 1 3 8 に通して装着し、閉めるために取っ手 1 3 2 を引いたところである。

【0049】

【発明の効果】

この発明は以上説明したようなもので、籠（口）が外力で多少変形しても、蓋の本体と口枠線との間の空間が外力を遮断して蓋の本体は損傷を免れる。また、可動部が籠の変形に従って容易に回動や前後移動するため外力を逃がしもしくは吸収して、可動部はもちろん蓋の本体も強い力を受ける事はなく、蓋は無傷ないし軽微な損傷にとどまる。かつ、籠が多少変形した状態でも、可動部は支障なく回動や前後移動するため、閉め具の位置や傾きを籠の変形に容易に対応させることが出来る。依って、蓋は変形した口を塞ぎ固定して閉める事が可能となり、籠の継続使用が可能となった。

なお、可動部は蓋の本体より小さく本体の一辺から数センチメートル引き出して使用するものであるから、回動や前後移動しても目だたず、蓋の本体は不動もしくはわずかに後退するだけで口との位置が大きくずれることはない。

また、蓋は装着辺の対辺で閉めるため確実に閉める事が出来る上、円形リングで装着しているから、開閉に関わらず常に一定の位置にあって後方へ突き出ることはない。更に、蓋の本体は口より小さく可動部も前後に動くから蓋を装着面の内側に密着収納出来るため、大きな荷物で閉められない時などは予め蓋を装着面の内側に密着収納して荷物を入れることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】

その一の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【図2】

その二の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【図3】

その三の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【図4】

その四の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【図5】

その五の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【図6】

その六の一例の蓋と口枠線の斜視図である。

【符号の説明】

1、2 1、4 1、6 1、9 1、1 2 1 蓋の本体

3、7 7、9 6、1 2 5 本体の枠線

6、4 2、4 3、6 2、6 3、6 7、6 9、9 2、9 3、9 4、9 5、1 2 2、1 2 3、
1 2 4 横格子線

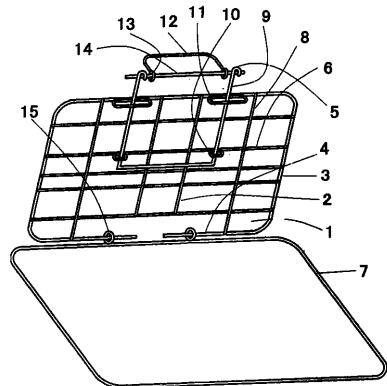
7、2 2、4 4、6 5、9 7、1 2 6 口枠線

2 4、4 7、7 2、1 0 1、1 3 0 長い縦格子線

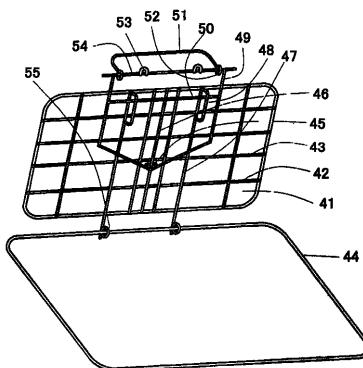
9、4 8、7 8、8 2 コの字形の線

- 10、11、25、26、45、99、100、102、168 長方形リング
34、31、50、54、73、74、81、105、110、137 線
12、28、51、79、107、132 取っ手
5、30、53、76、109、134 フック
13、15、23、29、52、55、70、71、80、83、108、112、12
7、133、138 円形リング
2 後部を省略した縦格子線
4 装着線
8、46、103、129 縦格子線
27、31、33、104、105、131、135 端を加工した線
32、34、106、111、136 ピン
49 後部を後方へ突き出した線
84 回動案内用半円弧
66、68 円弧
75 回動用円形リング
98 中央部を省略した横格子線
102 回動の支点とする長方形リング
【手続補正3】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】全図
【補正方法】変更
【補正の内容】

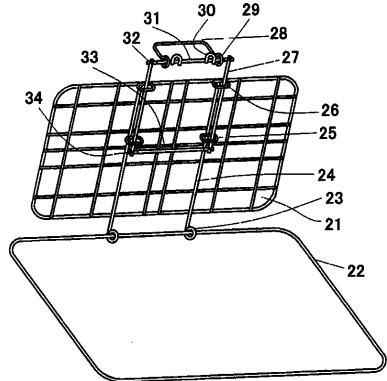
【図1】



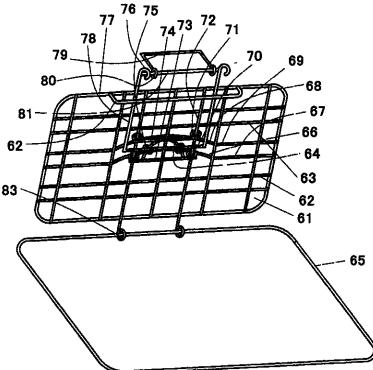
【図3】



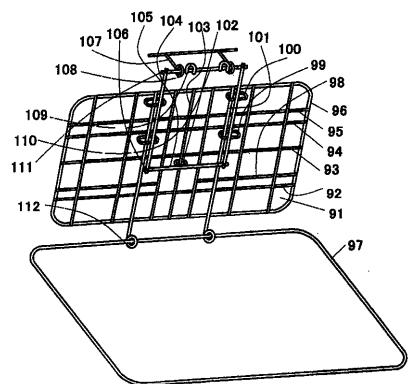
【図2】



【図4】



【図5】



【図6】

